独立行政法人
国立国際医療研究センター
NCGM
National Center for Global Health and Medicine

国府台

発行人　〒272－8516　千葉県市川市国府台1－7－1
国立国際医療研究センター国府台病院長　上村　直実
TEL:047(372)3501　FAX:047(372)1858

8月
第 12 号

［市川の梨］

市川市の農業特産品は梨です。夏の太陽をたっぷり浴びて育ち甘くておいしい梨です。
市川市北部の大町地区は、秋の収穫シーズンになると 幹線道路の両側には多くの直売（宅配）所や観光もぎ取り園が並び「梨街道」と呼ばれています。

目　次

◇ 理念・基本方針の改訂 ・・・・・・・・ 2
◇ 新医師の挨拶 ・・・・・・・・ 3
◇ 岩手県立釜石病院へ医師を長期派遣 ・・・・・・・・ 4
◇ 肝臓病教室の開催報告 ・・・・・・・・ 6
◇ 肝臓病教室のご案内・第1回NCGM-ICLSコースの開催 ・・・・・・・・ 7
◇ 看護の日のイベント開催報告 ・・・・・・・・ 8
◇ 手術部門の紹介 ・・・・・・・・ 9
◇ 地域医療連携病院のご紹介 ・・・・・・・・ 9
◇ 放射線まめ知識 ・・・・・・・・ 10
◇ 節電に関するお願い・エコキャップ回収状況 ・・・・・・・・ 11
◇ 東日本大震災に対する国府台病院の医療支援活動 ・・・・・・・・ 12
◇ 石巻市小・中学校教員研修 ・・・・・・・・ 13
◇ 児童精神科病棟の行事 ・・・・・・・・ 13
◇ 栄養一口メモ・看護師を随時募集中 ・・・・・・・・ 14
◇ 編集だより ・・・・・・・・ 15

＊ホームページでは、カラーでご覧になれます　http://www.ncgmkohnodai.go.jp

理念・基本方針（H23.7.14改訂）

平成23年7月14日の国立国際医療研究センター理事会において、理念・基本方針が議題となり改訂されることとなりました。今後とも国立国際医療研究センターをよろしくお願い申し上げます。

国立国際医療研究センターの理念

国立国際医療研究センターは、人間の尊厳に基づき、医療・研究・教育・国際協力の分野において、わが国と世界の人々の健康と福祉の増進に貢献します。

・世界に誇れる最善の医療と研究・教育を目指します。
・明日を担う優れた医療人の教育と育成に努めます。
・医療・研究・教育・国際協力の成果を広く社会に発信します。
・医療協力を通じて国際社会との架け橋になります。

国立国際医療研究センター
ー　東京都新宿区　ー

【国府台病院の理念】

国立国際医療研究センター国府台病院は、最善の総合医療を提供し、疾病の克服と健康の増進を通じて社会に貢献します。

【国府台病院の基本方針】

・診療と研究を統合し、患者の立場を尊重した医療を実践します。
・高度で先駆的な専門分野の連携に基づく医療を提供します。
・相互の信頼に支えられたチーム医療を推進します。
・安全で効率的な医療を提供し、その成果を広く社会に発信します。
・広い知識を有する良質な医療人の教育と育成に努めます。

【患者の権利と義務】

・平等で信頼に基づく最高の医療を選ぶ権利と病院内の規則を遵守する義務
・診療に関する全てを知る権利と病気に関する正確な情報を医療従事者に与える義務
・個人情報が保護される権利

国府台病院新棟建築中

新医師の挨拶

（外科医師　池田 真美）

2011年6月より外科で勤務させていただいております。東京女子医科大学を卒業後、肝移植を学びたいため東大病院の肝胆膵外科・人工臓器移植外科に所属し、肝細胞癌、胆嚢癌、膵癌や肝移植など比較的限られた疾患の診療をしておりました。当院に参りましてから、改めて一般・消化器外科医として守備範囲の広さを痛感しております。患者様方が病状を理解し、納得されて医療を受けていただけるよう、丁寧な診療を行うよう心がけております。至らぬ点があると思いますが、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

（精神科医師　佐藤　護）

本年6月より精神科で後期研修医として勤務しております、佐藤護と申します。4月付けで着任の予定でしたが、初期研修先の仙台市立病院でこの度の大震災を経験したため、5月まで宮城での勤務を延長させて頂いておりました。若輩者ではございますが、能力の足りぬ分は汗を流し、学び、貢献したいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（精神科医師　安川 明香）

2年間の研修医を終え、本年6月より精神科レジデントとして働かせていただいております。家庭の事情でブランクがあり経験は少ないのですが、時間の許す限り勉強して皆さまのお役に立てるようになりたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

（脳外科医師　西野 晶子）

本年7月から赴任しました。昭和61年に東北大学を卒業し、その後、主に東北地方にて脳卒中の外科治療を中心として診療を行ってきました。最も長い施設としては、国立病院機構仙台医療センターに15年勤務しておりました。脳卒中に関しては、手術症例を中心に沢山の経験を積んだという自負はあります。その一方で、それ以外ではまだまだ足りない事も沢山あると思いますが、岡田先生、香川先生と協力して、少しでも地域医療と当院の発展に役立ちたいと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。

～会計窓口からのお知らせ～

当院はクレジットカードによるお支払いが可能です。

※　10月から、次のカードもご利用可能となります。

JCB　　ｱﾒﾘｶﾝｴｸｽﾌﾟﾚｽ　　ﾀﾞｲﾅｰｽｸﾗﾌﾞ

【クレジットカードによるお支払いについて】
会計⑤番窓口にてお申し出下さい。
！）ご利用になれるクレジットカードの種類は以下のとおりです。

東日本大震災の医療支援活動報告

岩手県立釜石病院へ医師を長期派遣

第一内科医師
津 田　尚 法

本年5月15日から8月5日までの約3ヶ月間、岩手県釜石市にあります岩手県立釜石病院に診療支援に来ています。

釜石市は、岩手県の沿岸部にあるリアス式海岸で有名な陸中海岸国立公園のほぼ中央にある市です。釜石市までは東京駅から東北新幹線で新花巻駅へ、そして在来線（JR釜石線）に乗り換えて釜石駅まで合計約6時間程かかります。かつては、釜石鉱山での製鉄事業等により岩手県で2番目に市制が施行されたり（昭和12年）、ラグビーの新日鉄釜石が日本選手権7連覇を成し遂げるなど勇名を馳せた時代もあったようですが、最盛期9万人居た人口も製鉄所が縮小し始めた1960年代以降減少傾向となり、1989年に製鉄所の高炉が廃炉となり、近年は人口4万人程度となっています。

岩手県立釜石病院は、岩手県内を9つに分けた二次保健医療圏のうち釜石医療圏の中核となる病院で、病床数272床(但し地震の影響により耐震補強工事が必要となったため8月末までは60数床のみ)、診療科は内科・循環器科、総合診療科、消化器科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、眼科、産婦人科、小児科など多くの科がある総合病院です。釜石医療圏は、岩手県沿岸地域の中の南に位置し、包括する市町村は釜石市と人口1万5千人の大槌町があります。大槌町は今回の震災で町長をはじめ1,500人以上が津波とその後の火災で死亡または行方不明となり、中心市街地も殆んどの建物が倒壊又は焼失するという壊滅的被害を受けました。釜石市も死亡・行方不明併せて1,200人余りと変わらぬ被害を受けていますが、中心市街地が傾斜地や内陸まで広がっていたり、鉄筋コンクリート造りの建物も多く、また火災も無かったなどの理由から、目で見た限りでの被害の程度は大槌町ほどではないように見えます。一方、大槌町や陸前高田市、南三陸町志津川など比較的小さな町では中心部の集落全体が全て流れ去ったようであり、その被害は凄まじいものがあるようです。

私はこの県立釜石病院で内科および救急の診療に当らせて頂くことになりました。以前から国府台病院の統合内科で後期研修を行っている中で、どうしても不十分になりがちな救急医療分野をさらに勉強したいと思い、どこかの病院で研修をさせて頂きたいとお願いしていたのですが、そんな最中に今回の東日本大震災が発生しました。岩手医科大学の学長がホームページ上で2～3カ月単位で被災地の診療支援をする医師を募集しているのを見つけ、どうせなら被災地域の病院で研修したいと思い、国府台病院長の許可を得て応募するに至った訳です。

〈参考〉
岩手県立釜石病院への派遣は、岩手医科大学災害時地域医療支援室及び岩手県医療局医師支援推進室を介して、東日本大震災に対する診療援助」のために津田医師を派遣している。

この病院は二次救急病院と称されながら、転送可能な三次救急病院（通常は盛岡か花巻）までヘリコプターでも30分、通常は救急車で約2時間かかることもあり、医療圏内の全ての重症症例を一度は受け入れる体制になっているため、研修環境としてはなかなか充実したものがあります。

また、病棟診療でも、循環器・呼吸器関係を中心に、貴重な勉強をさせていただいているところです。岩手県でも沿岸部は元々医師不足に悩んでいる地域であり、県立釜石病院は釜石医療圏の中核的病院であるため比較的医師数が多い方ですが、それでも病床数272床に対して常勤医19名（研修医含む）と、国府台病院の約3分の1程度です。今回の震災では、幸い医師や職員には犠牲者はなく辞めた人も殆んど居なかったようですが、家や家族を亡くした方はおられ、また停電や被災直後の混乱の中で診療をずっと続けてきたこともあり、当地域の人々自身が被災者であるとも言えます。震災直後の3月中には全国からのD-MAT（災害救助隊）が交代で着任し、救急診療やヘリ搬送の患者さんの診療をしていたり、4月から9月までは全国各地で働く自治医大の卒業生が毎週2人ずつ交代で来て、救急外来や避難所の訪問診療にあたっています。私が着任した際には、上記に加えて自治医大が組織するものの所属先は様々な臨床心理士さんが毎週1人ずつ来ておられ、職員や外来での不眠の患者さんなどのカウンセリングにあたっています。

日常の診療は、週2日の外来と12～20人程度の入院患者さんを診察し、その他に毎週1回及び時々週末の日当直を担当しています。

外来では循環器系の定期通院の方や、かかり付け医が被災したり避難所や仮設住宅の事情から当院への通院を希望されたり、避難所生活中に往診医に高血圧を指摘されたりして受診を勧められた患者さんの診療を行っています。

堤防に乗り上げた大型船と自衛隊車両

入院では心不全や各種の肺炎、老衰・食事摂取困難などの患者さんを、当直や外来で診てから退院に漕ぎ着けるまでを、常勤の先生と共に診察しています。

こちらの診療で印象的なことは、循環器中心であるからか心不全の方が多く常に入院患者さんの3～4割を占めること、被災による粉塵などの関係からか変な肺炎や喘息の方も多いこと、それに高齢の方が大変多く、80歳から100歳近い患者さんが半分近くもおられること等でしょうか。近くのスーパーでも魚貝類売り場がとても広く種類も実に豊富なので、三陸沖の良質の魚貝の摂取が多いことと多分比較的長寿なことが関係あるのかな？とも思いますが医学的根拠は知りません。また、地震による影響で元々病床数が大幅に減っているうえに、近隣の療養施設も被災しているうえ、自宅を流されて避難所や親戚宅、仮設住宅などで避難生活を送っている方など退院先の確保に困難を来すことも多く、時には盛岡近辺の療養型病院に転院していただくこともあります。

また、最近はあまり見なくなりましたが、5月頃には怪我をした機動隊員、熱が出た自衛官、復興事業で関東から働きに来た人の交通事故、漁で各地の漁場を渡り歩いている漁師さんの作業中の事故、大阪市や愛媛県から支援で来たのち寄贈された救急車など、全国各地からの復興関係者の診察も多く、貴重な経験をしました。

県立釜石病院　救急室

釜石市中心街（5月撮影）
＊これでも瓦礫の撤去が進んだ状況

さらに興味深いのが、地元の方々（特に高齢者）の言葉の数々です。これまでに学んだのは、“胸がドカドカする”＝動悸がする、“お腹がニヤニヤする”＝何となく変な感じ？、“せつない”＝辛い、“～のんす”＝～なのです、“～っぺし”＝～しましょう（頑張っぺし釜石！）とか。また、“お茶っこ”、“歌っこ”、“血っこ”など何でも(ではないのですが)“っこ”を付ける、母音の“i”が“u”に聞こえる（“つ”＝血、“ずすん”＝地震、“わらす”＝わらし(童=子供)）など、最初は訳が判らないものの聞いているうちに楽しくなるものもいろいろあります。

また、こちらで診療していると、ここでは実に“本物”の病気に出会うことが多い気がします。今日も足の蜂窩織炎のつもりがみるみる敗血症性ショックになってしまった方がいましたが、心不全かな？と思ったら重症心不全で挿管・人工呼吸器管理、間質性肺炎を伴う肺炎かと思ったら本物の急性増悪で挿管・人工呼吸器管理（その後亡くなられた）、念のためと思って一応検査したら大きな肺塞栓、脳梗塞かも？と思ったらやはり本物の脳梗塞、などといった事例に事欠きません。やはり、ここがこの地域一帯から重症患者さんが集まる病院であり、加えて私が毎週1～2回ペースで当直を行っているから症例が集まるのか、もしくはこちらでは（特に大槌方面では）地域の人があまり病院に行かないため糖尿病等のコントロールが良くなくて本物の心筋梗塞等になる人が多いとか、いろいろ噂を聞きますが、いずれにせよ“本物”の疾患に出会う確率はとても高く、それがここの医療従事者を育て、鍛えているような気がします。

ともあれ、残すところあと約2週間ばかりとなりましたが、最後まで精一杯出来る限りの診療をして、少しでも被災者の方々や、地域の人々のために、少しでも尽力して来たいと思っています。岩手県でも特に三陸沿岸地域は慢性的に医師そして医療関係者不足であり、呼吸器科専門医は沿岸地域全てでも2人しかいないとか、腎臓内科医は岩手県全部でも一人しかおらず、透析は基本的に泌尿器科医がやっているが365日オンコールだとか、理学療法士や作業療法士さんも外来リハビリが手一杯で入院患者さんにはなかなか手が回らないなど、医療従事者のニーズは非常に高いようです。

最後になりましたが、当院からの“派遣”という形で快く送り出して頂いた院長先生、統合内科の先生方や、外来患者さんをはじめ不在中に御迷惑をお掛けしている関係の皆様には心より御礼申し上げます。三陸の地で学んできた事を今後の診療に還元することで、御礼とさせていただきたいと思います。

2階まで浸水し機能が停止した県立大槌病院

第２回　肝臓病教室の開催報告

肝炎・免疫研究センター
肝疾患先端治療室長　　村 田　一 素

本年6月25日（土）に第2回肝臓病教室が国府台病院・旧看護学校2階において行われました。

本来は3月12日に行う予定でありましたが3月11日の東日本大震災の影響で延期になっておりました。今回は、肝炎・免疫研究センター・肝疾患先端医療研究室長・伊藤清顕医師から「B型肝炎の最近の話題」について、第二消化器科医長・今村雅俊医師より「ラジオ波焼灼療法を中心とした肝癌最先端治療の紹介・当院における成績などについて説明がありました。また、第26病棟副看護師長・平野真美さんから「肝疾患にて入院した場合の処置や看護体制」について説明があり、当院に入院していただくに際して安心感を得ていただいたものと考えています。

第1回の出席者が47名であったのに対し、今回は63名と予想外（？）の多くの方に参加いただき、急遽椅子を用意したほど盛況でした。質疑応答も活発に行われ患者さん方の肝臓病に関する深い思いが伺い知れたように思えます。講演会終了後には個別相談会を行いましたが多くの方々が血液データやCTなどの画像を持ち寄り熱心に医師に質問されていました。

患者さん個人それぞれに応じた詳細な検討は、講義のみでは網羅できないため、今後も個人相談会は続けていく予定にしています。今回、参加された方にアンケートを取らせていただきましたが、ほとんどの方々は内容に満足されていたようです。しかし、「スライドが見えにくかった」、「スライドの資料が欲しかった」、「個別相談の希望者が多く相談できなかった」など貴重なご意見もいただきましたので今後、より良い「肝臓病教室」のために参考にさせていただき改善していきたいと考えております。

また、内容に関しましては皆様の興味あるものを中心に、今後も内容を変え、最新の情報を提供していく所存です。外来で患者さんと肝臓病に関してお話ししていますと誤解されている内容もかなりあることを気付かされますので、正確な知識・情報の提供し理解して頂き、無用な心配をしなくて済むよう、今後も肝臓病教室を続けていきたいと考えております。

なお、次回は9月3日（土）14時から16時に行う予定です。次回は、さらに多くの方が参加できるように、当院大会議室に場所を変えて行います。内容は、「肝硬変の病態とその注意点」、「肝硬変の食事療法」、そして、溝上センター長からは「最新のC型肝炎の治療」をお話ししていただく予定にしています。乞うご期待ください。また、終了後には個別相談会も前回同様行う予定ですが、次回は相談医師を増員してお待ちしております。

日時：６月25日（土曜日）　14：00～16：00
場所：国立国際医療研究センター 国府台病院・旧看護学校2階
14：00～14：05「概要説明」
村田一素　肝炎・免疫研究センター・肝疾患先端治療室長
14：05～14：35「B型肝炎の最近の話題」
伊藤清顕　肝炎・免疫研究センター・肝疾患先進医療研究室長
14：35～15：05「肝疾患で入院したら、どんなことをされるの？」－看護の立場より－
平野真美　副看護師長　・　山下美枝子　看護師長
15：05～15：35「ラジオ波焼灼療法：ここまできた肝癌最新療法」
今村雅俊　国府台病院　第二消化器科医長
※ 終了後に肝炎、肝硬変、肝癌を中心に個別相談を行いました。

村田一素　室長

伊藤清顕　室長

平野真美　副看護師長

今村雅俊　医長

肝臓病教室のご案内（第3回）

日　時　：９月３日（土曜日）　14：00～16：00
場　所　：国立国際医療研究センター 国府台病院・大会議室（2階）
◇正面玄関から入り、2階となります◇

〇14：00～14：05「概要説明」
村田一素　肝炎・免疫研究センター・肝疾患先端治療室長

〇14：05～14：35「肝硬変の病態とその注意点」
村田一素　肝炎・免疫研究センター・肝疾患先端治療室長

〇14：35～15：05「肝臓にやさしい食事について」－肝硬変の食事療法－
河野公子　栄養管理室長

〇15：05～15：35「ここまで治るようになったC型慢性肝炎」
溝上雅史　肝炎・免疫研究センター長

※ 終了後に個別相談（肝炎、肝硬変、肝癌を中心に）も行います。
※ ご相談のある方は血液検査・CTなどの資料をお持ちいただくと、状態に応じた詳しい説明をお受けになれます。

お問い合わせ先：〒272－8516　千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院
肝炎・免疫研究センター　村田一素
TEL: 047-375-4757

★当院の肝炎・免疫研究センターは、肝疾患撲滅を目指して臨床・研究を行っている肝臓病専門のセンターです。
県内外より肝臓専門医（計6名）が集結し、最新の肝臓疾患の診断・治療を行っています。

第１回　NCGM－ＩＣＬＳコースの開催

看護部教育担当看護師長
（ICLSインストラクター）田 中　且 子

6月11日、私たちインストラクター待望の「日本救急医学会認定ICLSコース」が、東京医療センターの菊野救命救急センター長をコースディレクターにお迎えし、当院にて初めて開催されました。ICLSコースとは、突然の心停止に対して最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得することを目標とした“医療従事者のための蘇生トレーニングコース”で、1次救命から更に「治療可能な心停止の原因を知り、原因検索をできる」という判断力・行動力が求められます。

研修医6名を含む、記念すべき第1回受講者12名は、9時から18時まで1日かけて人工呼吸や心臓マッサージ、AEDや除細動など実技中心の研修を行い、最後に、実技試験及び筆記試験…と高いハードルを全員が無事にクリアし、「蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる」「心停止時の4つの心電図波形を診断できる」「電気ショックを安全かつ確実に行うことができる」「状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる」など習得することができました。なかでも、実技・筆記共に優秀と認められた研修医の七澤先生にはMVP賞が贈られました。

今後12名は、「ICLSプロバイダー」としてコースに参加し、更に研鑽を続けたのち「ICLSインストラクター」として日本救急医学会に認定されます。当院には、理学療法士・看護師など、すでに10名以上の認定インストラクターがおりますが、今後さらに多くのインストラクターが誕生することを期待しています。

ICLS認定バッジ
左:インストラクター
右:プロバイダー

看護の日のイベント開催報告

28病棟　副看護師長
大 森　亜紀子

イ ベ ン ト 内 容

テーマ ： 看護の心をみんなの心に
ーあたたかい看護を提供しますー

日　　時 ： 平成23年5月11日（水） 11時00分～15時00分
場　　所 ： 国府台病院駐車場を予定していましたが、当日は雨のため会議室での実施となりました。
〈イベント内容〉
　血圧測定コーナー、体脂肪測定
　コーナー、エコノミー症候群予防運動指導、ポスター展示など

前年度までは、国府台病院のPRをメインに行ってきましたが、今年度は、原点に戻って、看護の心をみんなの心に～あたたかい看護を提供します～というテーマで開催しました。
各部署の笑顔あふれる紹介写真にはじまり、「こころのケアチーム」の被災地での活動報告、いきいきと働く看護師の仕事内容の紹介などの展示コーナーは多くの患者さんが立ち止まり見て下さっていました。
看護師による血圧・体脂肪の計測コーナーでは、測定後に笑顔で看護師と話をする患者さんの姿が多くみらました。じっくり触れ合える機会は、患者―看護師共にいい影響があったのではないかと思います。
栄養・薬剤・リハビリの相談コーナーも、いろいろな方が利用されていました。
改善点もありますが、患者さんに国府台病院のカラーを感じて頂くよい機会となったと思います。
個人的には、普段あまり会話することのない他部門のみなさんが、ポスター作りや力仕事など快く協力してくださったことがとっても嬉しかったです。このようなことをきっかけに病院全体で一致団結して、楽しく活気ある病院になるといいなと思いました。
今回のイベントを開催するにあたってご協力してくださったみなさまに感謝いたします。

「看護の日」とは？

毎年５月１２日は「看護の日」です。そして、１２日を含む週の日曜日から土曜日までが「看護週間」です。２１世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、一人ひとりが分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、旧厚生省は、平成２年に「看護の日」を制定しました。

手術部門の紹介

第二消化器外科医長
青 柳 信 嘉

手術部門のスタッフ

国府台病院の手術部は麻酔科医師6名、手術部看護師7名、外科系診療科の医師15名、臨床工学士2名で構成されています。実際に手術をお受けになると決まったときには、多くの方が不安や戸惑いを感じられるかと思います。手術部ではそのような不安を少しでも取り除けるよう、主治医の説明に加えて術前に麻酔科医師と手術室看護師が手術患者さんの訪問を行って、丁寧でわかりやすく手術麻酔の説明をさせていただいております。

当手術部では腹腔鏡手術システムや手術用顕微鏡等の手術機器等や麻酔機器は最新のものを導入しております。また、医師と看護師はいずれも経験豊富で、家族的な雰囲気でチームワークもよく、ハード面ソフト面ともに患者さんに安心して手術を受けていただける環境を提供できていると自負しております。さらに、来年には新病棟が完成し、数年後には新外来棟に建て替えられます。その際には新しくさらに充実した手術室で患者さんをお迎えできるようになります。

手術顕微鏡システム

腹腔鏡手術システム

地域医療連携病院のご紹介

医療法人社団　田中クリニック
院長　田 中　則 好

田中クリニックは、北国分2丁目に開業して25年目を迎えて居ります。

私は、この地、市川の出身ですので、子供の頃から国府台病院の患者として、いろいろな治療を受けました。医師としては約15年間、県内で他の2か所の国立病院に勤務致しました後、今は患者さんを紹介してお世話になっている次第です。現在、4人のスタッフと共に、外科、消化器科、皮膚科を標榜しての診療ですが、一人での外科の限界は申すまでもなく、消化器に関する最新診断装置を駆使するとすれば、正直のところ経済的にも不可能に近いと感じています。皮膚科は、ある大学の先生方のご指導をいただきました。

当然のことながら、診断、治療共に、高度の医療は国府台病院のお世話になりつつ今に至りまして、心より感謝致して居ります。今後ともご支援の程、勝手ながら期待させて頂きます。ともすれば自己防衛を、無意識の中にも意識せざるを得ない悲しいご時世と現実ですが、私に可能な任務は、患者さんと目線の一致した対話と可能な医療の範囲での頑張りと考えます。

そして、更にその先の受けるべき医療への道案内役として精一杯努力したいと思いますので、国立病院の皆様、患者さんの紹介に、どうぞ宜しくご対応を重ねてお願い申しあげます。

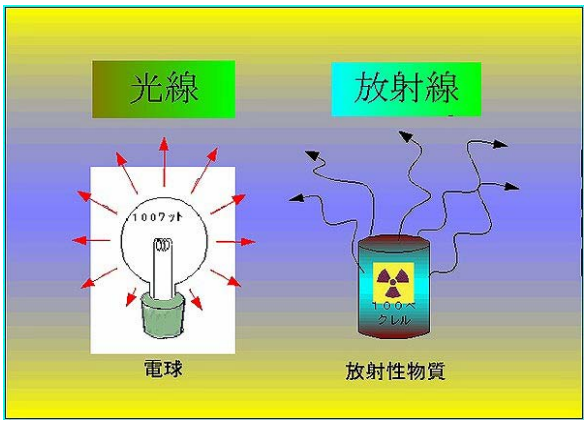
住　　所	：	市川市北国分　2−5−8
電　　話	：	047-372-8501
診療科目	：	外科、消化器科、皮膚科
予防接種	：	インフルエンザ、破傷風、B型肝炎 肺炎球菌ワクチン
各種検診	：	肺がん検診、大腸がん検診 乳がん検診、前立腺がん検診

～　放射線まめ知識　～

副診療放射線技師長
堀　延壽

【放射線まめ知識 】

最近のマスコミ報道などで「福島第1原子力発電所からの放射能漏れの影響で○○学校の校庭では放射線量が○○mSv/h計測されました。」といった放射線に関する用語が多く使用されるようになりました。そこで、放射線に関する基本的な単位や放射線と放射能の違い、また普段自然に浴びている放射線について触れてみたいと思います。



1. 放射線の単位について

放射線の量を示す単位はGy(グレイ)やSv(シーベルト)がありますが、放射線の身体への影響を考える場合にはSv(シーベルト)が用いられます。また、放射能の強さをあらわす場合はBq(ベクレル)を用います。

(1)放射能の単位:ベクレル(Bq)
放射線を出す能力を表す単位(1Bqは1秒間に1個の原子核が崩壊すること)

(2)吸収線量:グレイ(Gy)
放射線のエネルギーが物質にどれだけ吸収されたかを表す単位
(1Gyは物体1kgあたり1ジュールのエネルギー吸収があるときの線量)

(3)線量当量:シーベルト(Sv)
人が放射線を受けたときの影響の程度を表す単位
(吸収線量に放射線の種類やエネルギーの違いによる補正係数をかけ算した線量)

2. 放射線と放射能の違いについて

「放射線」と「放射能」は、よく似た言葉で時々混同されます。

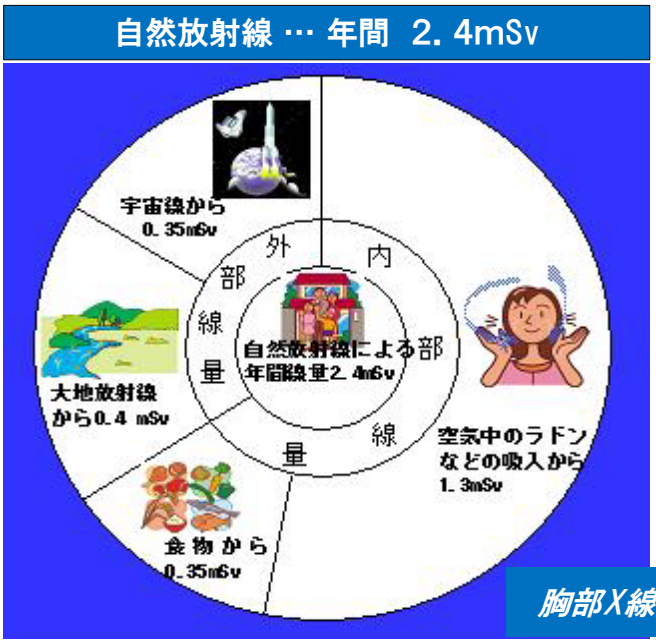
●放射性物質を電球に例えると、電球から出る光が放射線に相当します。
光度(カンデラ)に相当する放射線の量を表す単位にグレイ(Gy)があります。

●電球の光を出す能力が放射能にあたります。
電球の明かりの強さを出す能力(ワット)に相当するのが、放射能の量を表す単位のベクレル(Bq)です。

3. 私たちは1年間にはどのくらいの自然放射線を被ばくしているのでしょうか？

私たちが生活するなかで1年間に自然から受ける自然放射線の量は平均2.4mSv(2400μSv)と言われています。これは地球外の太陽や星からの宇宙線、地面やまわりの建物および食物などから受ける放射線の量です。

例えば、国際線航空機に搭乗した際、成田→ニューヨーク間往復で受ける宇宙放射線による被ばく線量は0.19mSvになります。これは胸部X線撮影2回分に相当します。



このように、普段余り気にすることはありませんが、私たちの身の周りでは常に微量の放射線が発生し、環境の違いによっても自然放射線の量は変わってくるのです。

胸部X線撮影 … 0. 1mSv／1回

節電に関するお願い

《事務部よりお知らせを2つ》

東日本大震災以後、電力不足により計画停電の実施や自主的な節電対策に取り組んでまいりましたが、この度、6月1日に経済産業大臣から大口需要家に対して、夏期（7月1日～9月22日）の電力使用制限について通知があり、昨年の使用最大電力の15％削減を求められました。しかしながら、医療関係施設は制限緩和措置が適用され、当院も制限緩和申請を行い削減率0％の制限緩和が適用されております。

この特例措置は、生命・身体の安全確保の観点から特例が認められたものですが、病院も可能な限り徹底して節電に取り組むことが求められています。

当院では、自主的に削減率8％の節電行動計画を立て節電に取り組んでいます。 なお、当院で実施している節電対策は、患者さんの医療には何ら影響はございませんので安心して当院をご利用下さい。

【節電対策事項】

◇駐車場照明や外構案内板の一部照明は消しています。
◇廊下などは極力照明を点けないようにしています。
◇執務室の照明は必要な部分だけとするなど、1／3を目標に蛍光管を抜き取りました。
◇温水便座の電源は切っています。
◇自動販売機の照明は消しています。
◇網戸のない場所は網戸を設置し、なるべく窓を開けるようにしています。
◇事務室西側や機能訓練棟には緑のカーテンを設置しました。（写真）

緑のカーテン（事務室）

◇個別エアコンの設定温度は接客部門は28℃、非接客部門は28～30℃としています。

なお、患者さんがご利用される病棟や外来は、重油ボイラーの冷房ですので、これまでどおり冷房環境が整っています。

◇外来診察終了後の診察室、使用していない処置室、不在医局等の照明は、こまめに消灯及び空調停止を行っています。
◇電気ポットを点けっぱなしにせず、必要の都度、ガスや電気で沸かすよう心掛けています。
◇電気を使用しないエアポットを極力使用しています。
◇パソコンの待機電力をカットするためコンセントを抜くか、スイッチ付コンセントなどでこまめに切るよう心掛けています。
◇個別エアコンのフィルターは定期的に清掃を行うよう心掛けています。
◇冷蔵庫は、業務に支障がない限り温度設定を「弱冷」に設定しています。
◇利用率の低いパソコンはシャットダウンとスリープを使い分けています。
◇液晶テレビの画面の明るさを5割に抑制、パソコンの画面の明るさを4割に抑制しています。
◇使用しない電気器具等は電源を抜くよう心掛けています。

エコキャップ回収状況

す。キャップ回収は、「NPO法人エコキャップ推進協会」を通じて発展途上国の子ども達のワクチンを贈る運動に協力することになります。800個で一人分のワクチン代（20円）ということです。また、一般ゴミに混ぜて捨てるとCO2の発生源となり、埋め立て処分すると土壌汚染となり地球環境を破壊することになります。

運動を開始して約6ケ月間、7月末の回収で20,600個と予想以上の結果となっており感謝を申し上げます。

今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

キャップ回収
↓
再資源化事業者へ売却
↓
NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）
↓
発展途上国へ

東日本大震災に対する国府台病院の医療支援活動

前回発行の広報誌でも紹介しましたが、国府台病院では被災地へ様々な医療支援活動を実施してまいりました。特に宮城県石巻市への心のケアチームの派遣は、石巻市及び宮城県庁からも当院の支援を強く希望されており、2名体制での派遣は10月以降も継続する可能性があります。
（国府台病院HP…http://www.ncgmkohnodai.go.jp/info/sien20110705.html）

1. SCU（広域搬送の救護基地）活動状況
日時：平成23年3月12日（土）～平成23年3月14日（月）
氏名：消化器科医師　吉澤　大
業務：羽田空港で被災地より緊急搬送された重症者の医療活動

2. 福島県への医師派遣（白河市・相馬市）
日時：平成23年3月11日（金）～平成23年3月24日（木）
氏名：外来診療部長　朝日茂樹
業務：白河中央中学校内避難所、白河市内山崩れ現場での救急活動、
公立相馬総合病院での医療活動及び身体障害者療養施設の県外搬送

3. 医療チーム（心のケアチーム）の緊急派遣（宮城県石巻市周辺）
〈4名体制の派遣〉

3月21日～27日	精神科医（佐竹直子）、児童精神科医（宇佐美政英） MSW（長竹教夫）、看護師（北内　力）
4月 4日～10日	精神科医（中島常夫）、児童精神科医（岩垂喜貴） MSW（山本啓太）、看護師（菅谷智一）
4月18日～24日	精神科医（安井玲子）、児童精神科医（小平雅基） MSW（堀内　亮）、看護師（山集美蘭）
5月 8日～14日	精神科医（早川達郎）、児童精神科医（宇佐美政英） MSW（佃　宏美）、看護師（伊藤宏彰）
5月22日～28日	精神科医（佐竹直子）、児童精神科医（渡部京太） MSW（長竹教夫）、　看護師（北内　力）

〈2名体制で派遣〉

6月 7日～ 9日	児童精神科医（岩垂喜貴）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（田中宏美）
6月15日～17日	精神科医（伊藤寿彦）、MSW（山本啓太））
6月22日～24日	児童精神科医（渡部京太）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（松田久実）
6月29日～ 1日	精神科医（中島常夫）、看護師（稲　秀治）
7月 6日～ 8日	児童精神科医（小平雅基）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（牧野和紀）
7月13日～15日	精神科医（早川達郎）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（吉田衣美）
7月27日～29日	精神科医（佐竹直子）、MSW（長竹教夫）
8月 3日～ 5日	児童精神科医（宇佐美政英）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（勝見千晶）
8月10日～12日	精神科医（安井玲子）、看護師（名手千晶）
8月17日～19日	児童精神科医（岩垂喜貴）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（飯島崇乃子）
8月24日～26日	精神科医（佐竹直子）、MSW（山本啓太）
8月31日～ 2日	児童精神科医（渡部京太）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（青木桃子）
9月 7日～ 9日	精神科医（中島常夫）、看護師（鎌田満穂）
9月14日～16日	児童精神科医（小平雅基）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（原田真生子）
9月20日～22日	精神科医（早川達郎）、MSW（佃　宏美）
9月28日～30日	児童精神科医（宇佐美政英）、ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（佐々木祥乃）

以後も継続を検討中

4. 国立国際医療研究センター病院との協力体制派遣（宮城県東松島市周辺）

4月14日～19日	18次隊	薬剤師（中里英人）
4月24日～29日	24次隊	製剤主任（桐原陽一）
4月26日～ 1日	25次隊	内科部門診療部長（石川俊男）
5月 2日～ 7日	28次隊	心療内科医師（田村奈穂）
5月 2日～ 7日	28次隊	副薬剤部長（高橋省三）
5月14日～19日	35次隊	試験検査主任（牧山　稔）
5月24日～29日	40次隊	薬剤師（白井　毅）
6月 5日～10日	43次隊	調剤主任（伊東秀幸）
6月19日～24日	45次隊	薬務主任（神長雅浩）
7月10日～15日	49次隊	心療内科ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（本間洋州）
7月19日～22日	50次隊	心療内科ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ（山下裕美子）

5. 岩手県立釜石病院へ医師を長期派遣
期間：平成23年5月16日～平成23年8月5日
氏名：第一内科医師 津田尚法
業務：現地の医師不足に対して当院が協力するもの

心のケア活動地域
渡波地区（5避難所）
石巻地区（2避難所）
雄勝地区（4避難所）
北上地区（3避難所）
河北地区（3避難所）
河南地区（2避難所）
石巻市役所等職員ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ

スタッフミーティング

医療チームの拠点
石巻市役所

石巻市内を一望できる
日和山公園

復興が進んでいる石巻市内

石巻市立小・中学校教員研修（６月３日）

精神科部門診療部長
斎 藤　万比古

石巻市立小中学校生徒指導担当者研修会並びに災害時における児童生徒の心のケア研修会の講師として齊藤万比古と小平雅基の2名の児童精神科医の派遣を依頼されました。

これは、被災後国府台病院が心のケアチームを派遣してきた支援の一環として、4月中旬以降石巻市内の学校が再開していく中で、徐々に震災直後とは内容的に異なる対応の難しい子どもの事例が出現しており、どのようにこの問題に対応したらよいか知りたいという学校の先生方の要望が増えてきたことから、教育委員会が企画した研修会です。研修会は平成23年6月3日（金）の15時から16時30分まで石巻市立二俣小学校体育会で開かれ、市内小中学校の生徒指導主任や養護教諭約80名が集まりました。

研修会では、津波で浸水した家の話を仲間同士で行っている場面に立ち合った場合どう対応したらよいか、家族を失った生徒に対して教師のアプローチはどうあるべきか、震災によって転校を余儀なくされた生徒の教育相談をする際に触れないほうがよい点はあるかといった現場の先生ならではの臨場感あふれる質問が出され、それに答えるという形の講演をさせていただきました。そこでは何よりも、特別なことが必要なのではなく、一人一人の先生に教師としての自信と、子どもの健全な心の育ちを守る最前線にいるという誇りを取り戻していただくことが何よりも必要なのだという趣旨を強調しました。

そして、私たち心のケアチームは先生たちの努力に応えて支援を今後も続ける旨をお伝えしました。

〈参考〉

当該研修は、石巻市教育委員会からの要請を受けて、石巻市立小・中学校生徒指導担当者に対して「災害時における児童生徒の心のケアについて」研修を依頼されたものです。

日時　：　平成２３年６月３日
会場　：　石巻市立二俣小学校体育館

被災した教室

石巻市内小・中学校教員に講演する齋藤部長

児童精神科病棟の行事

市川市立第一中学校
教諭　　西 山　晴 雄

市川市立第一中学校院内学級は、国府台病院の敷地の一角にあります。大きな木々に囲まれた緑が多い環境です。教室が3つ、職員室が1つのこぢんまりしたプレハブ作りの建物です。院内学級は入院並びに通院をしている生徒の学力を保障し、一人一人の進路選択のアドバイスを行い、義務教育を卒業と同時に、新たな生活が始められるように手助けをしていく、という役割を担っています。生徒の持つ課題解決のため、医療と連携をとりながら進めています。

院内学級では、病棟と連携したたくさんの行事が、年間を通し計画されています。そのほとんどが、徒歩を取り入れた校外学習です。4月は江戸川土手を歩き、「矢切の渡し」で葛飾柴又へ渡る遠足があります。5月には、真間川辺を歩き千葉県現代産業科学館までの徒歩遠足があり、6月上旬には、JR保田駅から始める鋸山登山に行き、下旬には、1泊2日の高尾山登山キャンプがあります。グループ別行動を目的とした11月の鎌倉江ノ島散策があり、3月の東京ディズニーランド卒業遠足などが主なものです。

今年の高尾山キャンプは、6月28日・29日の2日間の日程で行いました。児童生徒・スタッフ総勢60名余りの行事に、私たち4名の院内学級職員も、スタッフの一員として参加しました。児童生徒の安全と無事故の実施のため、病院スタッフと何回も打合せを行い、細かな日程や一人一人の動き、持ち物の確認から、緊急時の対応まで時間をかけて検討していきました。特に、雨天時の対応に時間をとり話し合いました。

迎えた当日は、梅雨の晴れ間で天候に恵まれました。猛暑の中の登山はとても大変でした。3名の職員は、高尾山登山口から6号路を通って山頂に登り、一丁平・城山を経由し千木良に下る4時間のコースを引率しました。生徒も私たちも、木々の間を抜ける心地よい風を感じ、苦しみながらも大きな充実感を得ることができました。

さらに、千木良から嵐山に登った職員は、想像以上の過酷なコースに、歯を食いしばって頑張っている生徒達の姿に感動だったようです。夕食のバーベキューでお腹をいっぱいにしたあとは、キャンプファイヤーで歌やダンス、クイズやスイカ割りで盛り上がり、生徒達と職員が一体となって、楽しい一時を過ごすことができました。満天の夜空には、北斗七星がきれいに輝いていました。翌日は、遊園地で思いっきり汗をかきました。強い夏の日差しを浴び、たくさんの思い出を作ることができました。

栄養一口メモ

管理栄養士＆野菜ソムリエ
近 藤 純 子

★☆　夏野菜で体のほてりをとりましょう　★☆

冬瓜

今年も暑い季節になりました。そんな時は食べ物でクールダウン！

からだの熱を下げる食べ物はいかがでしょうか？

夏が旬のきゅうり、ゴーヤ、なす、オクラ、トマト、スイカ、冬瓜（とうがん）などは水分が多く、ほてった体の熱をとると言われます。特に冬瓜は実の約95％が水分で利尿作用があるというカリウムを多く含み、今がオススメの野菜です。

冬瓜の名は丸のまま冬まで保管できるところからついたとされています。冬瓜自体は味をほとんど感じませんので、他の食材との相性はバッチリです。

加熱すると冬瓜の透明感が際立ち、魚介類と組み合わせる料理は家庭でも簡単に高級感を演出できます。

●簡単おいしい知恵袋

冬瓜のエビあんかけ

① エビはひとつまみの塩を入れた湯でサッと下ゆでする。
② 冬瓜は中心部にあるワタと種を取り除き、皮をむいたら３㎝角に切る。
③ だし汁で竹ぐしが通る程度まで冬瓜を煮たら、砂糖やみりん、しょうゆなどで味を付ける。
④ 下ゆでしたエビを加えてひと煮立ちさせたら、水溶き片栗粉でとろみをつけて
できあがり。暑くて食欲がなくても冷蔵庫で冷ましてから食べると とても口当たり良く、美味しく頂けます。

かつおだし、昆布だし、コンソメなどお好みの味で作れますし、エビの代わりにとり挽肉にしてもＯＫです。だしをきかせて調味料を少なめにすることが冬瓜をおいしく食べる秘訣です。

疲労回復効果があるというアスパラギンを多く含み、夏が旬の さやいんげん を加えると彩りも良くなります。

看護師を随時募集中

急募　看護師

“新病棟オープンに向けて看護師を増員する計画です”

☆常勤の看護師を募集しています。

☆チームワークの良い職場で働きませんか。

♪ 復帰支援プログラムも充実しています
♭ まずは病院見学はいかがでしょう。
♯ 随時受け付けております。

国立看護大学校の実習生です

新病棟の完成が間近となりました

勤務時間や給与等の処遇につきましてはご相談下さい。
連絡をお待ちしております。
連絡先（代表） TEL 047－372－3501
内線（PHS） 6301
担 当　副看護部長 高 橋

編集だより

編 集 長

“「市川の梨」と「二十世紀梨の発祥地」をご紹介します”

【市川の梨】

千葉県の梨栽培は、栽培面積・収穫量・産出額ともに全国順位では第1位です。千葉県は土壌条件、気象条件に恵まれた梨の栽培適地であるほか、江戸時代より長年蓄積された技術があります。

県内でも特に市川市、白井市、鎌ヶ谷市、松戸市の東葛飾地域一帯は、都市化が進む中でも梨の栽培が盛んに行われています。市町村別栽培面積は、１位が白井市、市川市は２位となっています。

そして、千葉県の梨栽培の起源は市川市で、市川の梨は江戸時代から「八幡梨」としてもてはやされ、江戸そして東京の人に好まれてきました。現在も市川の梨は、味も香りも評判が良く、高い評価を受けています。

品種は、かつては「長十郎梨」と「二十世紀梨」でしたが、 現在は 「幸水」「豊水」「かおり」「新高」などが主に生産されて、また、新たな新品種として最近では「あきづき」の栽培が増えています。

梨の種類と時期

幸水	8月 上旬 ～ 8月 中旬
豊水	8月 下旬 ～ 9月 中旬
かおり	9月 上旬 ～ 9月 中旬
あきづき	9月 上旬 ～ 9月 下旬
新高	9月 中旬 ～ 10月 上旬

☆二十世紀公園（住所：松戸市二十世紀ヶ丘梨元町24）

【二十世紀梨の発祥地は松戸市】

市川市の隣町の松戸市は二十世紀梨の発祥地です。国府台病院の近隣に、所在地は松戸市になりますが「二十世紀公園」があります。この公園には「二十世紀梨誕生の地の碑」「二十世紀梨感謝の碑」「天然記念物二十世紀梨原樹の碑」が建てられています。

明治２１年に松戸覚之助という１３歳の少年が、ごみ捨場で一本の苗木を見つけ、１０年後の明治３１年に果実を得ることに成功したそうです。そして、明治３７年に「二十世紀梨」と命名されました。その原木は、昭和１０年に国の天然記念物にも指定されましたが戦争で焼夷弾の被害を受け、昭和２１年に枯れてしまいました。「二十世紀梨」の産地として知られる鳥取県には、明治37年に松戸から苗木が送られ鳥取県で栽培が始まりの日本一の産地を築くこととなりました。

この原木の一部は、松戸市立博物館に展示されています。

天然記念物
二十世紀梨原樹の碑

二十世紀梨感謝の碑

二十世紀梨誕生の地の碑

国立国際医療研究センター
国府台病院
TEL 047－372－3501（代表）

外　来　診　療　担　当　医　師　一　覧　表

平成２３年８月１日現在

診療科・曜日			月	火	水	木	金
内科	内科		吉川玲欧（総合） 増井良則（総合）	足立洋希（総合） 森川博久（総合）	森山純江（総合）【第1･2】 津田尚法（総合）【第3･4･5】	濱崎秀崇（総合）【第1･2･4･5】 田中 眞（総合）【第3】 西村 崇（総合）	森川博久（総合）【第1･2･3】 津田尚法（総合）【第4】
			柳内秀勝（糖尿・内分泌）	三島修一（糖尿・内分泌） 本田律子（糖尿・内分泌）	三島修一（糖尿・内分泌） 濱崎秀崇（糖尿・内分泌）	峯山智佳（糖尿・内分泌） 柳内秀勝（糖尿・内分泌） 足立康久（午後）（糖尿・内分泌）	三島修一（糖尿・内分泌）
			吉澤篤人（呼吸器）【第３】 水谷友紀（呼吸器）【第2･4･5】 杉山温人（呼吸器）【第１】	多田真奈美（腎臓疾患） 【第１・３】午前のみ		放生雅章（呼吸器）	水谷友紀（呼吸器）【第1･3･5】 竹田雄一郎（呼吸器）【第２】 小林信之（呼吸器）【第４】
			森山純江（ﾘｳﾏﾁ・膠原病）	金子礼志（ﾘｳﾏﾁ・膠原病）	増井良則（ﾘｳﾏﾁ・膠原病）	吉川玲欧（ﾘｳﾏﾁ・膠原病）	金子礼志（ﾘｳﾏﾁ・膠原病）
			菊池 嘉（感染症） 【第２・４】午前のみ	フットケア外来（糖尿・内分泌） 【第１・３】午後予約のみ		フットケア外来（糖尿・内分泌） 【第２・４】午後予約のみ	三輪哲義（血液疾患） 【第２】午前のみ 萩原將太郎（血液疾患） 【第４】午前のみ
	消化器科		上村直実（一般） 西村 崇（一般）	小飯塚仁彦（一般） 小林正典（一般）	上村直実（一般） 吉澤 大（一般）	矢田智之（一般） 青木洋一郎（一般）	小飯塚仁彦（一般） 尾上淑子（一般）
			正木尚彦（肝炎 ･肝臓）午前のみ 青木孝彦（肝炎・肝臓）	溝上雅史（肝炎・肝臓） 村田一素（肝炎・肝臓）	松井哲平（肝炎・肝臓） 斎藤紘昭（肝炎・肝臓）	今村雅俊（肝炎 ・ 肝臓） 正木尚彦（肝炎・肝臓）	今村雅俊（肝炎 ・ 肝臓） 伊藤清顕（肝炎 ・ 肝臓）
	消化器科内視鏡	午前	吉澤大･矢田智之	吉澤大･矢田智之	小飯塚仁彦・青木洋一郎・小林正典	小飯塚仁彦・吉澤大・小林正典	上村直実・矢田智之 青木洋一郎・小林正典
		午後	小飯塚仁彦･矢田智之･ 青木洋一郎･小林正典	小飯塚仁彦･吉澤大･ 青木洋一郎･小林正典	小飯塚仁彦・青木洋一郎・小林正典	吉澤大･矢田智之･青木洋一郎	小飯塚仁彦・矢田智之・小林正典
	消化器科腹部エコー		今村雅俊・小林正典	伊藤清顕・斎藤紘昭・ 青木洋一郎			村田一素
	循環器科		一瀬哲夫	出雲和秀／田中由利子	黄 文懋	（交代制）岡崎 修・原 久男	（午前）原 英彦（午後）田中由利子
	心療内科	初診	大川昭宏（午前）（予約制）		田村奈穂（午前）（予約制）	石川俊男（予約制）	富田吉敏（午前）（予約制）
		再診	石川俊男 吉田庸子(午前)	石川俊男・田村奈穂	知場奈津子 岩村康子（午後）	本間洋州	石川俊男（午後） 山下裕美子
			（午後） 奥見裕邦・苅部正巳（隔週）	富田吉敏	小西 恵	富田吉敏	田村奈穂
	神経内科	初診	本田和弘（予約制）	休診	本田和弘（予約制）	休診	本田和弘（予約制）
		再診	本田和弘(午後･予約のみ) 竹内壯介【第4】(午前･予約のみ)		本田和弘(午後･予約のみ)		本田和弘(午後･予約のみ)
外科	外科		交替制	休診	池田真美 青柳信嘉（エコー） 青柳信嘉（内視鏡）（第１・３）	青柳信嘉 遠藤大昌（ＡＭエコー） 池田真美（ＡＭエコー）	遠藤大昌
	消化器外科		交替制		池田真美	青柳信嘉	遠藤大昌
	肝臓・胆嚢・膵臓外科					青柳信嘉	
	乳腺外科		交替制		池田真美		遠藤大昌
	内視鏡外科				池田真美	青柳信嘉	遠藤大昌
	ヘルニア外来				池田真美（12:00～15:30）		
	ストーマ外来（完全予約制）						
	脳神経外科		岡田 仁	西野晶子	岡田 仁	香川賢司	西野晶子
	整形外科	初診	尾崎純三	手術日	（隔週）新井 元/尾崎純三	高澤 誠	新井 元
		再診	新井 元			高澤 誠	尾崎純三
	皮膚科		佐久間正寛	佐久間正寛	佐久間正寛・東竹逸子	佐久間正寛	佐久間正寛
	泌尿器科		浅野桐子	加納英人	長濱克志	長濱克志	加納英人
	眼科	初診	山崎廣子	山崎廣子・柴 玉珠	手術日	山崎廣子・柴 玉珠	柴 玉珠
		再診	山崎廣子・ＰＭ 柴 玉珠（予約制）				
	養護外来						ＰＭ山崎廣子 （第2･4 予約制）
	耳鼻咽喉科		原 治	原 治	原 治	原 治	原 治
	麻酔・ペインクリニック科		休診	休診	休診	休診	休診
	救急科		朝日茂樹	朝日茂樹	朝日茂樹	朝日茂樹	朝日茂樹
精神科	初診	第１・３・５曜日	中野知恵子	水田康彦	安井玲子	芦澤裕子	草西 俊
		第２・４曜日	榎本哲郎	伊藤寿彦	中島常夫	佐竹直子	鵜重順康
	再診	①診	安井玲子	榎本哲郎	佐竹直子	吉田衣美	芦澤裕子
		②診	伊藤寿彦	芦澤裕子	中野知恵子	草西 俊	中野知恵子
		③診	早川達郎	安井玲子	早川達郎	鵜重順康	伊藤寿彦
		④診	塚田和美	中島常夫	水田康彦	水田康彦	中島常夫
		⑤診				榎本哲郎	塚田和美
		⑥診	児童精神科	PM 特診 伊藤順一郎	特診 伊藤順一郎		
		⑦診	児童精神科	児童精神科	児童精神科	児童精神科	児童精神科
	特診（予約制）		ＡＭ 精神科予診	精神科予診	精神科予診		
	睡眠障害専門外来（完全予約制）		ＰＭ芦澤裕子（再診）			ＰＭ早川達郎・芦澤裕子(初診)	早川達郎
			初診予約は１２名／月まで。電話予約が必要 ※５				交代制
児童精神科（予約制）	初診		毎週金曜日 対象者 中学生（１５歳）以下 **電話予約（９：３０～１７：００）が必要**				予約制
	再診		渡部京太･小平雅基･宇佐美政英 岩垂喜貴･青木桃子	渡部京太･小平雅基･宇佐美政英 (午前)牧野和紀 (午後)勝見千晶･飯島崇乃子	齊藤万比古 (午前)渡部京太･宇佐美政英 (午後)田邉尚･田中徹哉	齊藤万比古･小平雅基･岩垂喜貴 松田久実	渡部京太･宇佐美政英 (午後)佐々木祥乃･牧野和紀
放射線科	放射線診断		前田浩喜	前田浩喜	前田浩喜	前田浩喜	前田浩喜
	放射線治療		放射線治療は、機器老朽化に伴い治療を一時休止させていただきます。				
歯科	初診（予約制）		友田衣早佳	友田衣早佳	友田衣早佳	休診	友田衣早佳
	再診		友田衣早佳	友田衣早佳	友田衣早佳	滝澤裕也(午前)／友田衣早佳(予約のみ)	友田衣早佳

（注）１．外科及び整形外科の担当医は、手術などの都合で変更（交替）になる場合があります。

＊初診受付時間：８時００分～１１時　　**＊再診受付時間：８時００分～１１時**

※１　心療内科:初診は完全予約制 電話受付時間は平日16－17時まで、又は平日心療内科外来窓口にて受付けます。
（心療内科外来に半年以上来院していない場合は、再診ではなく初診となります。）

※２　神経内科：初診・再診ともに完全予約制　電話受付時間は平日16-17時　神経内科外来にて受付けます。

※３　外科：ストーマ外来は完全予約制で外科外来窓口にて受付けます。

※４　精神科：初診は１日 ４名迄 ＋ 予約枠 ２名

※５　睡眠障害専門外来の初診予約受付は電話のみ（０４７－３７２－３５０１）、当月の予約は前の月の平日１日１６時から受付けます。
（１日が土日祝日の場合は翌平日となります）

※６　フットケア外来は完全予約制です。診察時間は１４時４５分～１５時１５分。診察場所は内科外来第１診察室になります。

※７　歯科外来：初診は予約制で１日３名までです。電話受付時間は平日15-17時　歯科外来にて受付ます。